



今のまま、行きます



大山崎町国民健康保険運営協議会会長

北村元一 氏

大山崎町一帯は水質が良いことで有名でウイスキー工場も近くにあるが、北村さんが好んで飲むのは焼酎だ。若い時分は、0時前には帰ってこないと言われるほど飲んでいましたと笑う。82歳になる現在も医者から週に2日の休肝日を勧められるほどだが、健康状態は良好だ。

毎朝、登校する児童の交通誘導のボランティアを続けている。10年程前の町会議員時代、大山崎町に新しく道路ができてからほぼ毎日小学生の通学を見守ってきた。

「それが最近3日ほど休んだら、足がつってしまってね。もしかしたらこの活動も健康に一役買ってるのかもしれないと思ったよ。」

児童のために始めたことだが、結果的に自分のためにもなっていた。子どもと毎日接することで、気持ちにも良い張り合いが生まれるのだろう。最初は北村さんが声をかけても反応がなかった子どもが、だんだん自分から「おはようございます。」とあいさつしてくるのがうれしい。今では自分も協力したいと希望する人が増え、活動の輪が広がっている。

趣味は詩吟だ。週に2回、自ら会長を務める長寿会での活動に参加している。こちらも10年程続けている。

「腹から声を出すのが身体にいいんじゃないかと思ってやっています。」

現在耳が少し聞こえにくくなったものの、詩吟をしているおかげか年齢を感じさせないしっかりとした声で話す。

「食べものに好き嫌いはなし。妻の作ったものを文句言わずに食べております。」と話す北村さんだが、2年前から公民館で行われている「男の料理教室」に通い始めた。以前は戦前生まれらしく「男子厨房に入らず」を実践していたが、奥さんの不在時にガスのつけ方が分からず、これではまずいと思ったという。習った料理を家で披露したことはまだないが、作ってあげたら奥さんはきっと喜ぶはずだ。

終始優しい笑顔で話してくれた北村さん。年をとるにつれ考えがたくなで他者に尊大な態度を取りがちになるが、北村さんにそれが無いのは、毎日様々な人に出会って見聞を広め常に新しい感動を得ているからだだろう。北村さんのこれからについて聞くと、「今のまま、行きます。」と宣言した。これまでの生活がベストであることを現在の北村さんが実証している。